

3.16.3 国際推進部門 標準化推進室

室長 古賀康之 ほか6名

国際標準化による研究成果の社会還元への推進

【概 要】

NICT の研究成果が実社会において広く活用されるよう、研究成果の社会還元の一環として、国際標準化活動の強化、推進を行い、我が国の国際競争力の強化に貢献している。具体的には、国際標準への反映を念頭においた研究開発を推進し、その成果を国際電気通信連合 (ITU) 等の国際標準化機関や各種フォーラムへ寄与文書として積極的に提案することを支援している。また、NICT は専門的な知見を有する中立的な立場であることから、国内における各種の標準化関係委員会への委員の派遣等を積極的に行うとともに、国際標準化で活躍することを目指した人材の育成を行っている。さらに、標準化に関するフォーラム活動、国際会議等の我が国での開催を積極的に支援している。

【平成 25 年度の成果】

(1) 国際標準化会議等への参加、標準への反映

- ① 研究開発成果を国際標準に反映していくため、各研究者は各種国際標準化機関等における会議等に積極的に参加するとともに、平成 25 年度においては研究開発成果等を寄与文書として延べ 471 件提出した。また、標準化に係る各種委員会、国際標準化機関等の会議等において、平成 25 年度は延べ 29 人が議長等としての役割を果たすとともに、延べ 30 人がエディター等の役割を務め、研究開発成果の国際標準化に貢献した。
- ② このような活動の結果、平成 25 年度においては新世代ネットワーク、ネットワークセキュリティ、ワイヤレスネットワーク、電磁環境等の分野において NICT の研究開発成果を反映した国際標準が成立した (図 1)。
- ③ また、平成 24 年 7 月に策定した標準化ポリシーを踏まえて、防災や医療分野などニーズオリエンテッドな標準化に関する取り組みを強化した。具体的には、ITU-T 「Focus Group on Disaster Relief Systems, Network Resilience and Recovery」、 「Focus Group on M2M Service Layer」、Asia-Pacific Telecommunity (APT)、Institute of Electrical and Electronic Engineers Standards Association (IEEE-SA) 等の国際標準化会合に参加し、NICT の研究成果の国際標準化に寄与するとともに関連の標準化動向の調査等を行った。
- ④ NICT の職員の国際標準化活動に関して、平成 25 年度においては、電波防護規制に関する ITU 勧告化への貢献に対して日本 ITU 協会賞 (国際活動奨励賞)、基本 EMC 規格の策定等に対する貢献に対して IEC1906 賞がそれぞれ授与された。



図 1 平成 25 年度に成立した国際標準の例
 左: ITU-T 勧告 X.1037 (IPv6 のセキュリティに関するガイドライン)
 右: IEEE 標準 1309-2013 (電磁界プローブ・センサの校正法)

(2) 標準を活用した技術等の成果発信

- ① 平成 25 年 11 月にタイ国において、ITU 世界テレコムが開催され、約 6,000 名の参加があった。この中で NICT は「Mobile Cloud Networks フォーラムセッション」に理事長が参加したほか、「耐災害 ICT に関するワークショップ」の開催、日本パビリオン内の NICT ブースでの 5 つのテーマの展示等、研究成果の発信を行った(図 2)。
- ② 平成 26 年 3 月に東京において「BAN 国際展開シンポジウム」を開催し、ボディーエリアネットワークの各分野へのさらなる応用と普及、国際展開を図るために、講演とパネルディスカッション、BAN の機器展示等を行った。

(3) 標準化活動に関する人材育成

- ① NICT 内の研究者に対して、国際標準化に関する最新事情の周知・啓発を目的とする標準化勉強会を計 4 回実施し、標準化に実際に携わっている外部専門家による講演等を行った。
- ② 国内外の国際標準化活動の現状を調査し、NICT の国際標準化活動の推進に活かすために、国内外の公的研究機関の標準化活動への取り組み状況や推進方策を調査し、機構内に周知した。
- ③ NICT 職員に、国際会議に参加するための専門セミナー(日本 ITU 協会等が主催)への参加を呼びかけ、5 名が参加した。

(4) 標準化に関するフォーラム活動への支援、標準化に関する国際会議等の我が国における開催支援等

- ① 大学や研究機関の研究成果に基づき新たな標準化の課題を特定することを目的とする「ITU カレイドスコープ会合 2013」(平成 25 年 4 月)の日本開催を支援し、各国から約 150 名の専門家が参加し、講演会やポスター展示を行った。この中で、NICT の研究成果についても発表および展示を行った(図 3)。
- ② 「新世代ネットワーク推進フォーラム」の IP ネットワークワーキンググループ事務局を務め、「フェムトセルガイドライン」の作成等、広帯域移動無線アクセス(BWA)に関する標準化を支援した。また、新世代ネットワークの標準化を推進する標準化推進部会の開催支援を行った。

(5) 標準化機関との連携強化

- ① 平成 25 年 4 月に ITU 事務総局ジャオ次長が来訪し、理事長や ITU で活動している研究者との間で意見交換を行った。
- ② 平成 25 年 10 月に IEEE-SA のカラハリオス事務局長等が来訪し、理事や IEEE で標準化活動を行っている研究者との間で意見交換を行った。
- ③ 平成 24 年度に連携・協力の推進に関する協定を締結した一般社団法人電波産業会(ARIB)との間で第 1 回の連絡会を平成 25 年 8 月に NICT において開催し、無線通信関係の標準化活動に関する意見交換を行った。



図 2 ITU 世界テレコム日本パビリオン NICT 出展ブース



図 3 ITU カレイドスコープ会合 2013 の模様